

第2回十日町市中心市街地活性化協議会 議事録（要旨）

| | | |
|-------|-----------------|-----------------|
| 【日 時】 | 平成24年11月15日（木） | 午後1時28分～午後2時31分 |
| 【場 所】 | 十日町商工会議所 多目的ホール | |
| 【出席者】 | 委 員 | 21名 |
| | 事 務 局 | 3名 |
| | 十日町市担当 | 4名 |
| | <u>随行者</u> | <u>2名</u> |
| | 合 計 | 30名 |

1. 開会挨拶：十日町市中心市街地活性化協議会 会長 丸山秀二

（要旨）中心市街地活性化協議会も第2回となる。国の方から指導を受けているが、特にハード面については厳しい指摘を受けている。これからはその課題をクリアしていく必要がある。スケジュールの方も事務局の方から説明があると思いますが、そのスケジュールに沿って進めていきたい。

2. 報告：（1）基本計画の策定状況について

説明者：市担当（山岸産業観光部長）

① 内閣府地域活性化推進室との協議について

7月以降おおむね月一回のペースで計画策定の状況説明を行い、先方からの指摘事項に対応してきた。

【主な指摘事項等】

- ・ 中心市街地の現状把握と課題の再整理を行うこと
⇒データ整理や資金の集積を再度行い、中心市街地活性化基本計画(案)第1章に反映させる。
- ・ 回遊性やにぎわい創出の説明を組み立てること
⇒ハード事業とソフト事業を組み合わせ中心市街地にどうやって人の流れを生み出すかを論理的に説明する。中心市街地活性化基本計画(案)第3章に該当している内容なので次回の第3回協議会での議題とする。
- ・ 中心市街地への居住促進、商業の活性化事業をさらに充実させること
⇒街なか居住促進については、旧田倉跡地活用事業やラポート十日町の拡張事業で高齢者賃貸住宅の建設を予定している。これらハード事業だけでなく街なか居住を誘発させるための支援事業を充実させるべく市の担当部署にて検討中。

商業の活性化については商店街振興組合や十日町専門店会協同組合などの商業団体との検討会を設置した。商業団体同士が連携する取り組みや、商業関係団体と企業、市民団体が連携できる取り組みを新たに基本計画(案)に盛り込む。計画のポイントとしては休日に行う単発的なイベントではなく、平日に長期的に行う取り組みを模索している。

② 今後の予定について

- ・ 1月中旬頃までに協議会を3回ほど開催し、基本計画(案)に対する意見書をまとめたい。

発言者：なし

3. 協 議：(1) 基本計画(案)について

説明者：市担当（富井中心市街地活性化推進室長）

資料(概要版)をもとに説明をした。

第一章「中心市街地の活性化に関する基本的な方針」のうち

[1]十日町市の概要

[2]中心市街地の現状分析

[3]中心市街地でのこれまでの取り組みと評価

[4]中心市街地の課題と基本的な方針

第二章「中心市街地の位置及び区域」

発言者：水落明（十日町地域振興連合会）

- ・ 中心市街地活性化事業の位置について

中心市街地には国道117号が走っているが、この部分は将来の十日町の活性化を考えると今まで通りでいいのかそれとも中心市街地から外したほうがいいのかという議論は今まであったのか。

説明者：市担当（山岸産業観光部長）

117号線沿いには商店街があり、幹線道路は中心市街地の背骨ともいえる。117号線を抜いて中心市街地を位置づけるのは難しい。中心市街地のエリアの外に国道を置くのは現実的ではないということからここに関する議論はしてこなかった。

発言者：水落明（十日町地域振興連合会）

幹線道路により東西を分断されることで生活交流の妨げになっている。定期便交通によってその周辺の住民が不便をきたしているという話も聞いている。そういう面で中心市街地に定期便が通るような幹線道路が将来の十日町にとって良いのかどうか疑問があったので議論して欲しかった。

説明者：市担当（富井中心市街地活性化推進室長）

十日町市の中心市街地には国道があり、そこに人が集まり街が形成されたという歴史がある。現在、他の地域ではこういった国道がバイパスになってしまっており、通過交通の利便性改善にのみ焦点が当てられている。その結果として郊外に大型店舗ができてしまい、中心市街地が衰退してしまっている。十日町では他の地域のように取り組むのではなく、現在の中心市街地の形を守っていくという方針で中心市街地活性化事業に取り組んでいる。

4. その他

説明者：市担当（富井中心市街地活性化推進室長）

資料をもとに経済産業省「中心市街地の商店街キャラバン」についての説明を行った。

5. 閉会挨拶：十日町市中心市街地活性化協議会 副会長 関口純夫

(要旨) NPOにぎわいの一つの動きとして来年1月から市内各地域のデータを集め、何処で何をやっているかを把握し、どうやったら連結できるか考えていきたい。本日説明のあったデータは、妻有ショッピングセンターの方に工場を作ったので肌で感じているが、街の中の人は妻有ショッピングセンターを利用する機会が少ない。街の中の人は中心市街地で用が足りるため郊外へ出かけないのであろう。データでも表れているが、中心市街地では他市町村から来る人は減っているが街の中の人を他市町村に逃がしていないことがわかる。よって街中居住人口を増加させれば数値はおのずと上がっていくものと思っている。

中心市街地活性化協議会としては、店舗から商店街という線から今度は面的に考えなければならぬということで、商店街振興組合の横のレベルはかなり出来てきている。今後は振興組合同士での連携を取っていきたい。